

# 和歌山県の地震

第 2 7 卷 5 号  
令和元年 5 月

## 和歌山県の地震活動

震央分布図	・・・・・・・・ 1
断面図	・・・・・・・・ 2
概況	・・・・・・・・ 2
和歌山県で震度 1 以上を観測した地震及び震度一覧	・・・・・・・・ 3
震度分布図	・・・・・・・・ 3

## 地震メモ No. 306

長期評価による地震発生確率値の更新について	・・・・・・・・ 5
-----------------------	------------

- \* この資料に使われている震源要素（北緯・東経）は、世界測地系に基づいています。
- \* この資料の地震の震源要素は暫定値を使用しています。震度データを含めて再調査した後、修正することがあります。
- \* 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。
- \* この資料に掲載した地図は、国土地理院の数値地図 25000（行政界・海岸線）を使用しています。

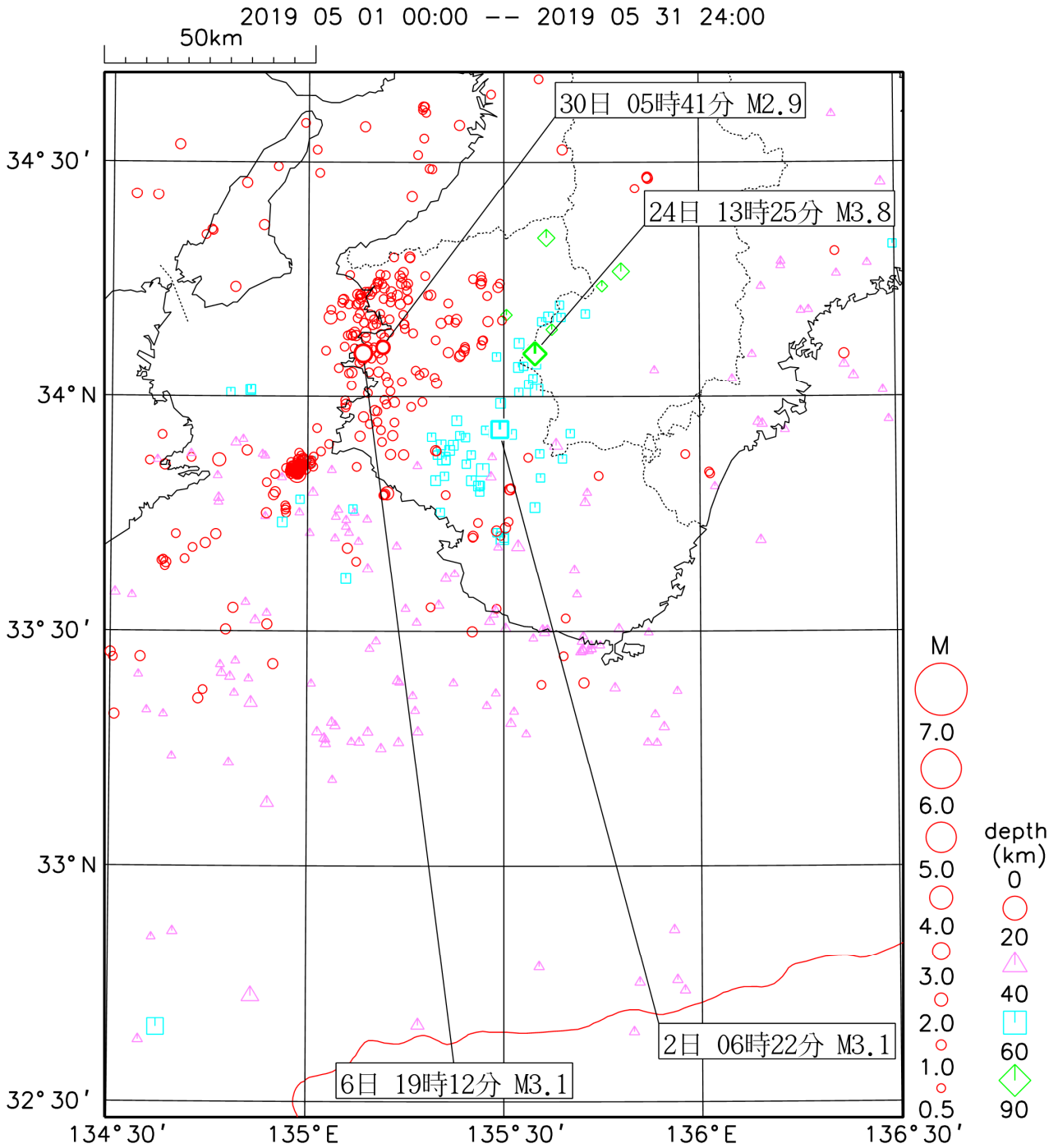
和歌山地方気象台

# 和歌山県の地震活動

2019年5月

和歌山地方気象台

## 震央分布図

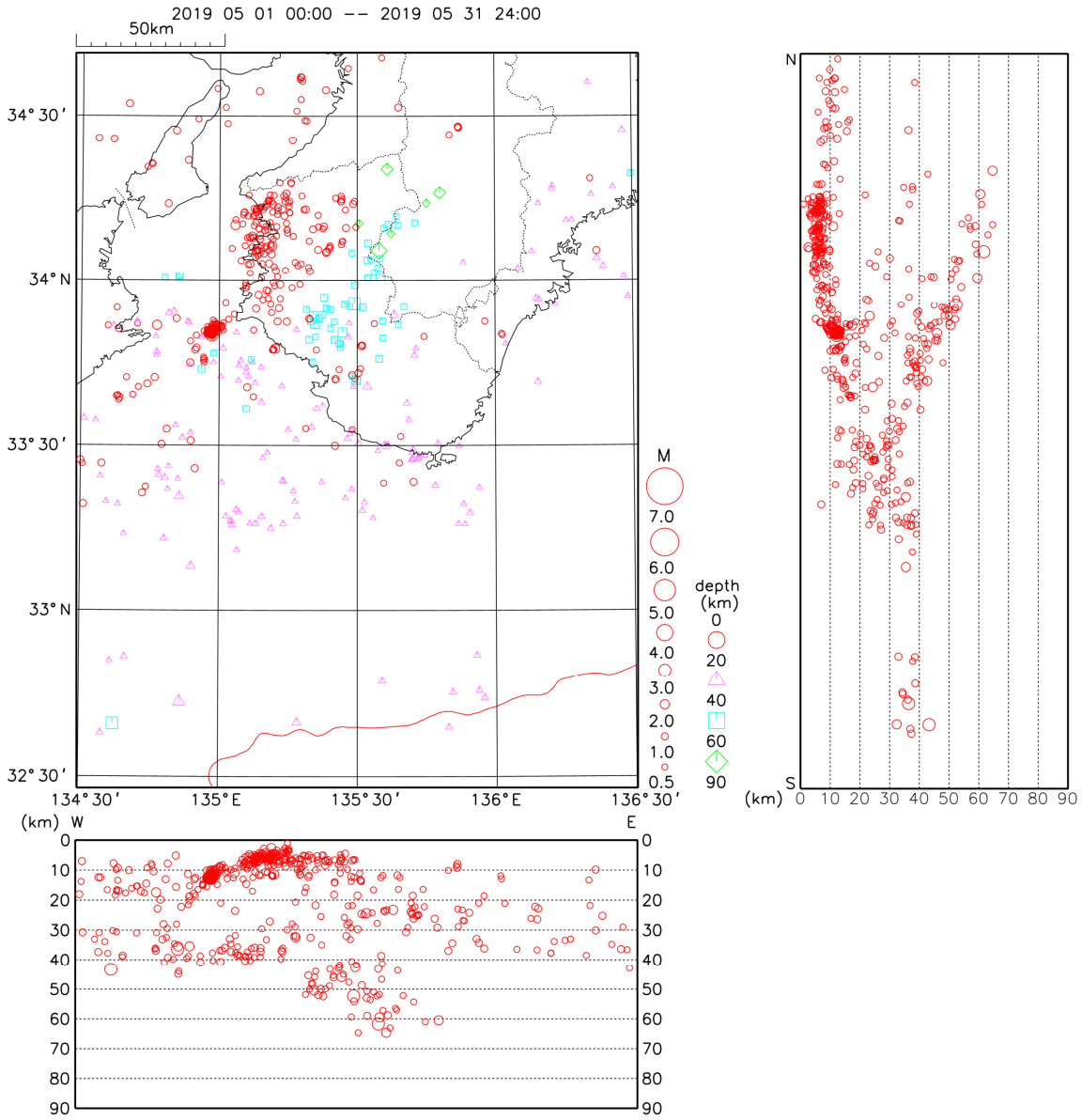


震央分布図は地震が発生した場所を地図上に描画したものです。

シンボルマークの大きさと地震の規模（マグニチュード）を、シンボルマークの形と色で震源の深さを表しています。また、赤線は海溝軸（南海トラフ）の位置です。

図中の吹き出しは、和歌山県内で震度1以上を観測した地震および震央分布図内で最も規模の大きな地震を示しています。

# 断面図



## 概況

5月の震央分布図内で震源決定した地震のうち、マグニチュード(M)2.0以上の地震は21回(前月は26回)でした。そのうち最も規模の大きかった地震は、24日13時25分奈良県の地震(M3.8、深さ62km)でした。この地震はフィリピン海プレート内部で発生したもので、県内では一部の市町で震度1を観測しました。

5月に和歌山県内で震度1以上を観測した地震は、上記の地震を含めて4回(前月8回)でした。

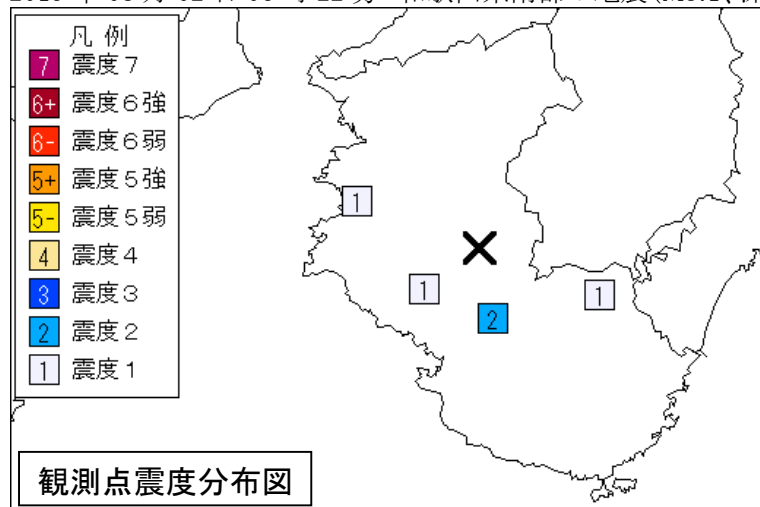
## 和歌山県で震度1以上を観測した地震及び震度一覧

発震時（年月日時分）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
各地の震度（和歌山県内のみ掲載）					
2019年05月02日06時22分	和歌山県南部	33° 55.8' N	135° 29.3' E	52km	M3.1
和歌山県 震度 2：田辺市中辺路町栗栖川＊ 震度 1：湯浅町青木＊, みなべ町土井, 田辺市本宮町本宮＊					
2019年05月06日19時12分	和歌山県北部	34° 05.5' N	135° 08.4' E	6km	M3.1
和歌山県 震度 2：海南市下津＊, 有田市初島町＊, 湯浅町青木＊ 震度 1：有田市箕島, 和歌山広川町広＊, 紀美野町下佐々＊					
2019年05月24日13時25分	奈良県	34° 05.5' N	135° 34.7' E	62km	M3.8
和歌山県 震度 1：御坊市園, かつらぎ町花園梁瀬＊, 高野町高野山中学校, 湯浅町青木＊, みなべ町土井 日高川町土生＊, 田辺市中辺路町近露, 田辺市中辺路町栗栖川＊ 田辺市本宮町本宮＊, 田辺市鮎川＊, 新宮市新宮, 新宮市熊野川町日足＊ 白浜町日置＊, 古座川町高池					
2019年05月30日05時41分	和歌山県北部	34° 06.3' N	135° 11.4' E	3km	M2.9
和歌山県 震度 2：海南市下津＊ 震度 1：有田市箕島, 有田市初島町＊, 湯浅町青木＊, 紀美野町下佐々＊, 有田川町下津野＊					

地点名の最後に＊のついている地点は、和歌山県または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

### 震度分布図（図中の×は震央）

2019年05月02日06時22分 和歌山県南部の地震(M3.1、深さ52km)

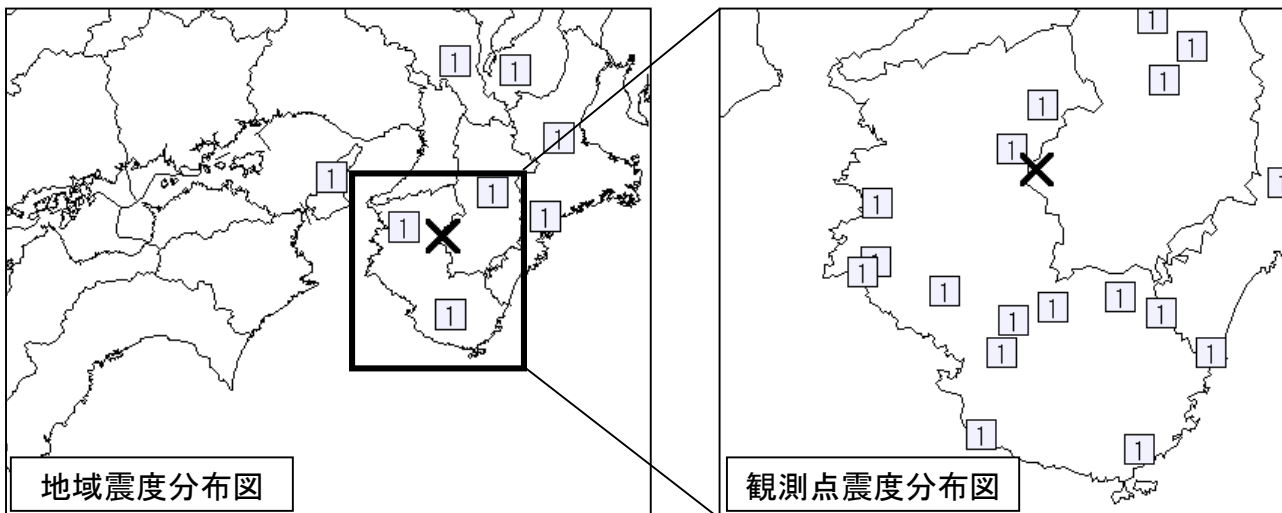


震度分布図（図中の×は震央）

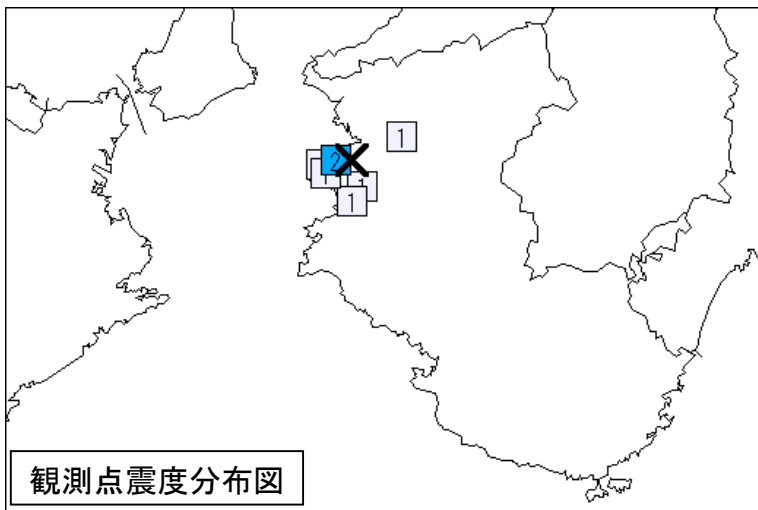
2019年05月06日19時12分 和歌山県北部の地震(M3.1、深さ6km)



2019年05月24日13時25分 奈良県の地震(M3.8、深さ62km)



2019年05月30日05時41分 和歌山県北部の地震(M2.9、深さ3km)



## 長期評価による地震発生確率値の更新について

地震調査研究推進本部地震調査委員会は、前回(2018年1月1日)から1年経過したことから、新たに『平成31年(2019年)1月1日を基準日として算定した地震の発生確率値』を公表しました。

本紙では、これらの公表資料から、和歌山県に大きな影響があると考えられる活断層(表1)および南海トラフの地震(表2)を抜粋し掲載します。前年の評価との変更箇所については、南海トラフの地震では、20年以内の発生確率(表2には未掲載)及び経過率に変更されています。また、平成30年7月より海溝型地震の長期評価についても、活断層の評価と同様にランク分けが導入され、確率の他、各ランクの色も記載するようになりました。

その他の活断層等の資料やより詳細な事項は、地震調査研究推進本部(<https://www.jishin.go.jp/>)でご覧になれます。

これらの資料は、地震の危険性を再認識し防災意識を高めるとともに、今後の効果的な地震防災や対策を検討する上での基礎資料として活用ください。

また、日本ではどの場所でも、地震による強い揺れに襲われることがありますので、ランク分けにかかわらず日頃からの地震に対する備えも重要です。

表1 和歌山県に大きな影響があることが考えられる活断層

断層帯名 (起震断層/活動区間)	長期評価で予想した地震規模 (マグニチュード)	活断層における相対的評価		地震発生確率 30年以内	地震後経過率
		ランク	色		
中央構造線断層帯 (金剛山地東縁区間)	6.8程度	Zランク		ほぼ0%	0.2-0.3
中央構造線断層帯 (五条谷区間)	7.3程度	Xランク		不明	不明
中央構造線断層帯 (根来区間)	7.2程度	Aランク		0.007%~0.3%	0.4-0.6
中央構造線断層帯 (紀淡海峡-鳴門海峡区間)	7.5程度	A*ランク		0.005%~1%	0.4-0.8

活断層における相対的評価の凡例

色	ランク	解説
赤	Sランク(高い)	30年以内の地震発生確率が3%以上
黄	Aランク(やや高い)	30年以内の地震発生確率が0.1~3%
黒	Zランク(-)	30年以内の地震発生確率が0.1%未満
灰	Xランク(-)	地震発生確率が不明(すぐに地震がおこることが否定できない)

地震後経過率が0.7以上である活断層については、ランクに\*を付記する

表2 南海トラフの地震

長期評価で予想した地震規模 (マグニチュード)	我が国の海溝型地震の相対的評価		地震発生確率			地震後経過率
	ランク	色	10年以内	30年以内	50年以内	
8~9程度	Ⅲ*ランク		30%程度	70%~80%	90%程度もしくはそれ以上	0.83

海溝型地震における相対的評価の凡例

色	ランク	解説
紫	Ⅲランク(高い)	30年以内の地震発生確率が26%以上
黄	Ⅱランク(やや高い)	30年以内の地震発生確率が3~26%
白	Iランク(-)	30年以内の地震発生確率が3%未満
灰	Xランク(-)	地震発生確率が不明(すぐに地震がおこることが否定できない)

地震後経過率が0.7以上である海溝型地震については、ランクに\*を付記する